

令和5年度 多摩市立連光寺小学校 学校経営方針

～ 分水嶺から成長至上主義 ～

多摩市立連光寺小学校
校長 関口 寿也

マスク着用の推奨が解除され、5月には新型コロナウイルス感染症の感染法上の分類が5類になります。3年間以上にわたる私たちの感染予防対応生活が大きく変わろうとしています。学校の教育活動も、コロナ禍から脱していくことになります。

奥秩父に「甲武信ヶ岳」という日本百名山の1つがあります。名のごとく、甲斐、武蔵、信濃の国境にあり、山梨県、埼玉県、長野県の県境になっています。山頂直下に湧水があり、南尾根に流れる雫は笛吹川に、東尾根は荒川に、北尾根は千曲川を經由して信濃川に流れます。同じ山から湧いていますが、流れる尾根によって異なる川となるこの地点を分水嶺と言います。甲武信ヶ岳を源流とするこの水たちは、水質も味も異なっています。スタートは同じであるのに、過程が異なることで違った性質になっていく。今年度からのアフター・コロナの教育活動はまさにその様相を呈しているのではないのでしょうか。

稀代の3年間を経て、ドラスティックに物事や考え方が変容しました。ICTの浸透や人と人とのつながりの再確認はよい一例です。コロナ禍で得た知見を無駄にすることなく、今後の学校教育活動を計画していくことが求められる1年となります。それは、これからのリファレンスとなるものです。結果ではなく過程。子供たちが本物の生きる力を身に付けるための成長至上主義をもって、教育活動を推進していきます。SDGsの目標年限まで残すところ7年となった、未来という新しい地平への道筋を。

1 教育目標

人権尊重の精神を基盤として自ら考え学ぶ力を身に付け、持続可能な社会の担い手として主体的に生きる人間としての資質・能力・態度を高めるために、次の目標を設定する。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">◎考えてやりぬく子
主体的に学び、高め合いながら考え行動できる児童○明るく思いやりのある子
多くの人とかかわり、自他を尊重しながら行動できる明朗で心豊かな児童○たくましくじょうぶな子
体力向上と心身の健康の保持増進に努める強い意志と体をもった児童 |
|---|

2 目指す学校像

(1) 児童が「もっと伸びたい」と実感できる学校

児童が、学びや人間関係において、「賢くなった」という振り返りや「思いやりの心」に気付くことが自己の成長を実感する時である。これは児童の学習意欲、生活意欲に直結する。その継続から、児童自らが「もっと伸びたい」と実感できる教育活動を推し進める。

(2) 保護者・地域にとって、安全・安心で信頼できる学校

学校、保護者、地域の共通する願いは、子供たちのよりよい成長である。そのためには児童が安心して学校生活を送ることが欠かせない。その視点を見失うことなく、迅速で誠意のある対応、随時相談できる関係づくり、日常的な教育への協働を心がけて信頼を高める。学校、保護者、地域が思いを一つにした教育活動を進めていく。

(3) 教職員にとって、やりがいをもって協働できる学校

教職員の喜びは、指導による児童の成長を体感することである。教職員として理想と信念を欠くことなく指導を充実させ、児童の成長のために主体的に協働する意識をもち邁進する。

3 指導に関わる具体的な取り組み

(1) 考えてやりぬく子（「多面的思考力」「問題解決力」「郷土愛」の育成）

【基礎学力】

- ① 学力向上委員会を中心に、授業改善推進プランを基にした指導方法の工夫改善を常に行い、基礎学力の向上を図る。
- ② 「できるようになったこと」を実感できる学習の振り返りを恒常的にを行い、児童の自己評価力（メタ認知）や自己肯定観を高める。
- ③ 全学年で、学年内の恒常的な交換授業を行い、児童観、授業観、教材観を共有しつつ養い、授業力を向上させる。
- ④ 若手研修会において、授業指導のポイントを研修し、自らの授業に生かす。
- ⑤ ICTを活用した個別最適な学びを迷うことなく実践する。

【読書指導】

- ① 国語力はすべての学習の要である。行事時数として確保した読書指導と、朝読書や保護者による読み聞かせを活用し、家庭と協調して児童の読書意欲を恒常的に高める工夫を重ね、読解力の向上を図る。
- ② 読書活動によって身に付けた言語能力を、各教科等と連携して効果的に充実させ、問題解決力に不可欠な思考力、判断力、表現力の向上を図る。

【ESDによるSDGs達成】

- ① 総合的な学習の時間を核とした全教育活動において、環境資源、文化資源、社会資源を存分に用いて探究活動・ESDを実践する。
- ② 探究活動・ESDは、カリキュラム・マネジメントや行事との連携を通してホール・スクール・アプローチで進め、児童の多面的思考力・問題解決力を計画的に育てる。
- ③ 探究活動・ESDの実践で、タブレット端末、eポートフォリオ、デジタル教科書の有効活用。
- ④ 全児童が家庭学習として自主学習に取り組み、主体的に学びに向かう姿勢を身に付ける。日々の宿題を内包する自主学習となることが望ましい。
- ⑤ 授業における児童の学びの成果をSDGsと関連付けて価値付け、「賢くなれた」「世界の役に立てた」とメタ認知できる自己有用感を高めるとともに、郷土を愛する心情を基にした持続可能な社会づくりに向けた人材育成を図る。
- ⑥ 児童の学びの成果発表・発信である生活・総合発表会は、本校の3大行事の1つとして教員・児童共に捉え取り組む。

(2) 明るく思いやりのある子（「豊かな情操」「人間関係形成力」の育成）

【道徳】

- ① 人権尊重の精神を基に道徳科授業を充実させ、「考え、議論する道徳」を実践する。「豊かな心」を育むことでいじめ防止も図る。
- ② 道徳指導で扱った内容を生活・総合や特活等、全教育活動の中で実践する。

- ③ 道徳の授業研修を若手研修会の中で行い、授業力の向上を図る。

【生命尊重】

- ① 全教育活動を通し、他者との関わりを深め、自他の生命を尊重する態度を身に付けることで、「生きる力」を育み、いじめ・体罰を根絶するとともに不登校・自殺を未然に防止する。
- ② 生き物の飼育や触れ合いを行い、優しさや思いやりの心を育てる。第2学年で東京都小動物飼育推進校としての実践授業を行う。

【特別活動・生活指導】

- ① 委員会活動やクラブ活動、行事、異年齢交流等において、児童のアイデアを活用し、児童に考え判断させることで主体性を高めるとともに、自助・共助につながる他者と協力する態度やコミュニケーション力を育む。
- ② 1年生で「かがやきプログラム」を活用し、ソーシャル・スキル・トレーニングに取り組む。生活習慣の確立や社会性を育成することで規範意識を高める。SSTは4月に朝の1/3時間を使い実施する。
- ③ 優しさと厳しさのある生活指導で、TPOに応じた「聞き方、話し方、行動」、早寝早起き、時間を守る意識、ネットリテラシー等、基本的な生活習慣の確立と、規範意識を育成する。

(3) たくましくじょうぶな子（「自己管理能力」「くじけない心」の育成）

【心身の健康】

- ① 集会や休み時間の外遊び推奨、保健指導、体育集会等、発達段階を考慮した運動の啓発を組織的・計画的に進め、体力の向上や心身の健康の保持増進を図る。
- ② 特別活動を中心に全教育活動において「あきらめない心」「やりぬく力」の育成を図り、キャリア・パスポート「あしあと」を用いた振り返りを行う中で自己の成長を確かめ、自己肯定感・自己有用感を育成する。

【危機管理能力】

- ① 危機管理意識を常にもたせ、廊下歩行、登下校の行動規範、交通安全、不審者対応はあらゆる機会を用いて繰り返し指導し、対応力向上を図る。
- ② 毎月のいじめ防止委員会を中心としたいじめの早期発見、迅速な対応、継続した見守りにより、児童の心身の安全への取り組みを進める。
- ③ 月毎のアレルギー対応委員会を中心に、複数の目でアレルギー対応のチェックを実施する。特に、食物アレルギーにおけるアナフィラキシーショックは絶対に起こさない。
- ④ スマートフォンや通信のできるゲームへの依存を防ぐため、随時啓発活動を行う。依存は不登校に直結する。児童に不必要なスマートフォンの保持は勧めないことを常にアナウンスする。
- ⑤ セーフティ教室は、全学年が学年の発達段階に応じたネットモラルに関する授業実践を行う。

(4) 教育目標の達成に向けたその他の事項

【特別支援教育】

- ① 特別支援教室を中心に、全教職員や関係機関との協力により、SDGsの「だれ一人取り残さない」という理念に基づき、合理的配慮の実践によりノーマライゼーションとインクルーシブ教育を推進する。

- ② 校内委員会で特別な支援が必要と判断された児童について、支援の手立てを保護者と相談し講じる。早期の支援は、児童の成長を促し、二次障がいや成長過程のトラブルを未然防止する。
- ③ 支援を必要とする児童に、待ったはない。特別支援教室の説明、見学、体験等、随時行う。
- ④ かがやき学級教員が、通常級担任に教室内での合理的配慮のアドバイスを行う。

【保幼小連携・小中連携・地域連携】

- ① 幼稚園や保育園、及び中学校と連携し、小1プロブレムや中1ギャップの解消を図る。また、生活指導及び特別支援教育の情報交換とともに、教育課程上の連携を行う。
- ② 学校運営協議会や地域学校協働本部を活用して、学校と家庭・地域が一体となった取り組みを全教育活動で実施する。またその成果をコミュニティ・スクールとして発信する。

4 その他の具体的な取り組み

(1) 指導力向上とOJT

- ① 学年内での交換授業、ブロックでの校内研究、教材の共有化を図り、授業力を向上させる。
- ② ICT活用ありき（賛否はあれど）。しかし、ICT機器の使用法のみを指導する授業時間はない。授業内容で必要に応じて使用法を学ばせていく。そのためのデジタル教科書や1人1台タブレット端末を活用した教員の指導方法のスキルを積極的に高める。
- ③ OJT担当を組織に位置付け、若手教員を中心とした研修会を実施し、指導のニーズに応えた授業スキルを高める。

(2) 環境に配慮した職場環境と教育活動

- ① 脱プラスチック推進。「あゆみ」の紙ファイル化、アサガオの鉢の再利用、教材(実験キット含)の選択等、最大限配慮する。教職員のペットボトルの持ち込みは禁止し、教材としてのペットボトル等のプラスチック類を家庭からの持ち物とすることも極力抑える。
- ② 給食や調理実習でのフードロスに向けて、保健給食部や学年、授業において手立てを講じる。

(3) 学校を取り巻く状況と働き方改革

- ① 学校のブラック化脱出と教員志望人数増に向けて。
- ② 正規教員の欠員と産休代替教員の不足の現状。
- ③ 平日の電話対応はこれまで通り18時までとさせていただきます。週休日の電話対応はできません。